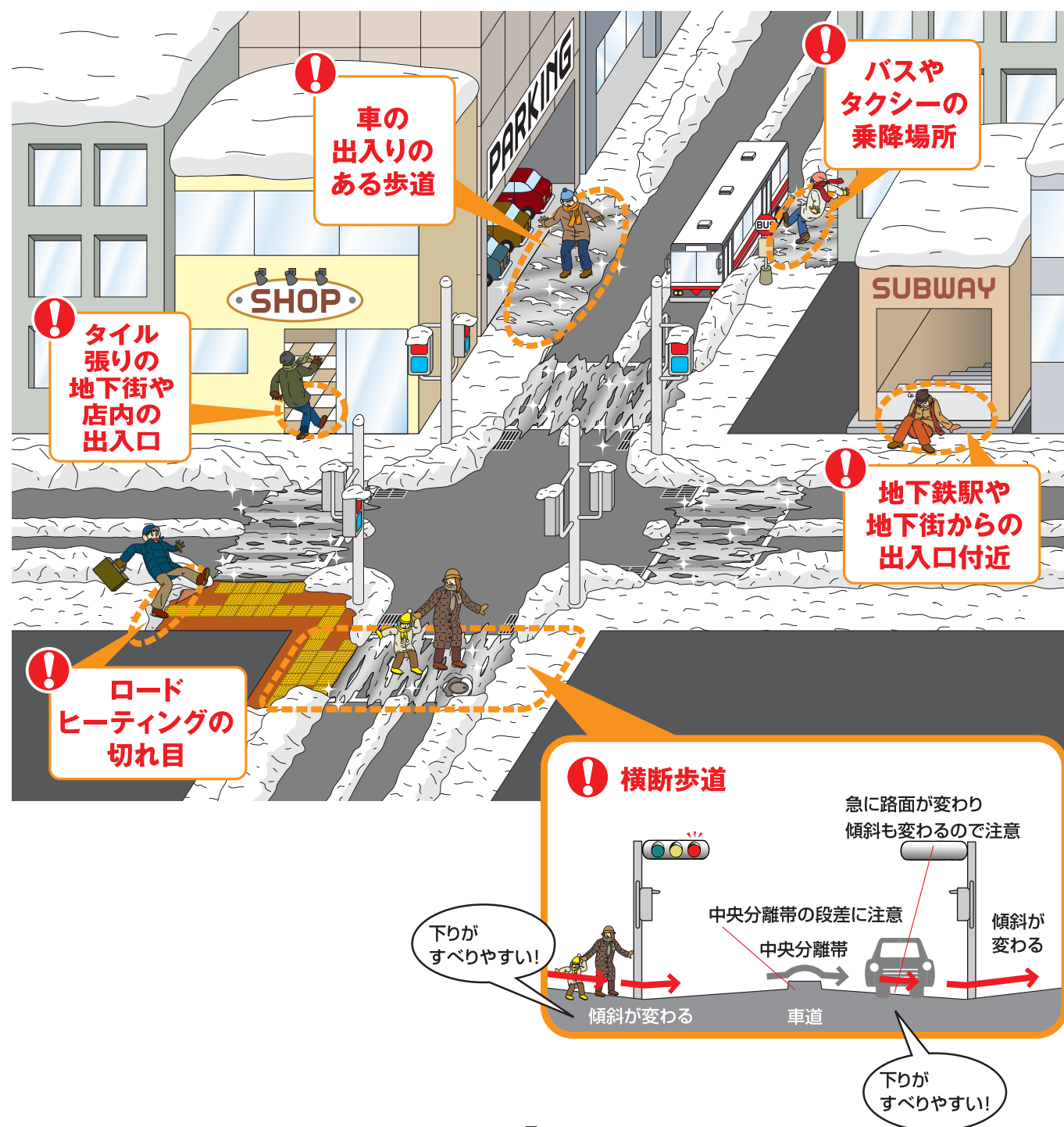


こんな場所は要注意！

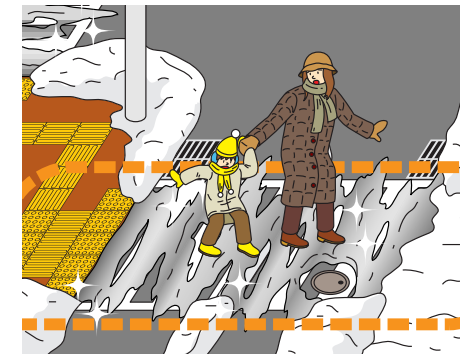
冬、札幌市内ではスケートリンクのように滑りやすい「つるつる路面」ができることがあります。転んでケガをしないために「転ばないコツ」をつかんで気をつけて歩きましょう！



横断歩道

注意その1

横断歩道は車や人がたくさん通るところなので、雪みちが踏み固められやすく、走っている車や停まっている車の熱で雪の表面が融けやすくなっています。



注意その2

横断歩道と歩道の境目や、中央分離帯と横断歩道の境目は傾斜が変化したり、段差ができることがあるので、要注意です。

注意その3

横断歩道の白線部は、普通の舗装部分と違い水が染み込まないため、薄い氷膜ができやすく、予想以上に滑る場合があります。なるべく白線の上は歩かないことをオススメします。

ロードヒーティングの切れ目

注意その1

ロードヒーティングのある所とない所の切れ目では、段差が発生して歩きづらだけでなく、部分的に非常に滑りやすい状態になっていることがあります。



注意その2

ロードヒーティングのある所からない所に入るときは、それまでの快適な路面から、路面が急に滑りやすくなるので十分な注意が必要です。



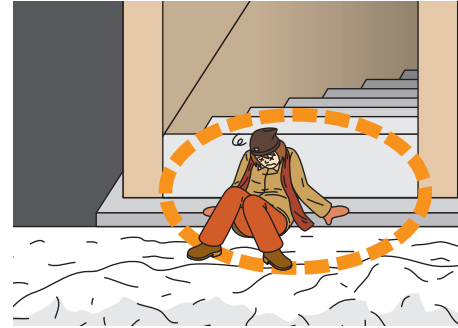
注意その3

マンホールのある場所も、そこだけが穴のように凹んでいる場合があるので、注意しましょう。

地下鉄駅や地下街からの出口付近

注意その1

地下鉄駅や地下街からの出口付近は人通りが多く、つるつる路面の発生しやすい場所です。



注意その2

出入口付近には段差があることも多いので、注意しましょう。

注意その3

駅や地下街から出てきたときには、それまでの快適な路面から、路面が急に滑りやすくなるので十分な注意が必要です。

注意その4

地下鉄駅などで急いでいると、路面に対する注意力も低下することがあります。慌てず、ゆっくり歩きましょう。

車の出入りのある歩道

注意その1

住宅や店舗の駐車場の入り口や、ガソリンスタンドなど、車の出入りのある歩道は、雪が車のタイヤに踏まれて固くなりやすく、さらにタイヤの摩擦で磨かれるため、非常に滑りやすくなる場合があります。



注意その2

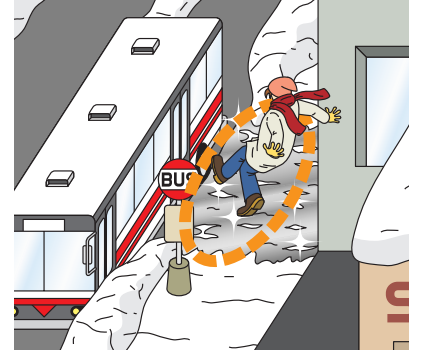
車道へのすりつけのための傾斜が歩道に設けられていることが多く、つるつる路面のときには転倒しやすくなります。



バスやタクシーの乗降場所

注意その1

バスやタクシーの乗降場所は、人や車で踏み固められ滑りやすくなる場合があります。



注意その2

乗降の際には特に足もとに注意しましょう。



タイル張りの地下街や店内の出入り口

注意その1

雪みちを歩いた後にタイル張りの地下街や店内に入るときは、靴の裏についた雪や水で非常に滑ることがあるので、注意しましょう。(靴の裏の雪、氷をしっかり落としてから入ることが大切です)

注意その2

ピンのついたタイプの冬靴や、ピンのついた靴用アタッチメントは、タイル張りのところでは、逆に滑りやすくなります。(収納できるピンは収納し、靴用アタッチメントは外した方が安全です)



こんな人は要注意！

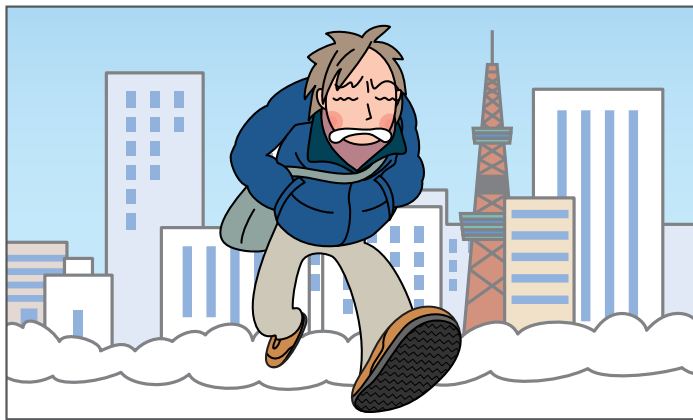
【急いでいる人】

急いでいると、足もとへの注意力が散漫になり転びやすくなります。また転んだときの衝撃も大きくなりやすいので、冬は特に「余裕をもって」行動し、「急がず、焦らず」歩くことが大切です。



【ポケットに手を入れて歩く人】

手をポケットに入れていると、急な動きに反応できず、ケガにつながります。



【両手がふさがっている人】

荷物などで、両手がふさがっていると、反射的に身体を守れないため、大きなケガにつながる可能性があります。



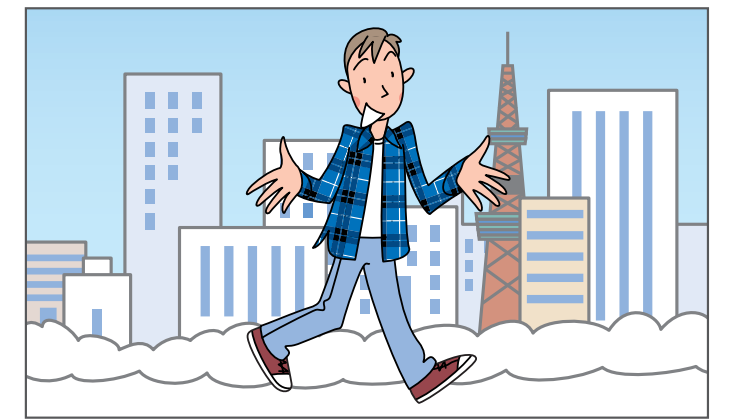
【何かに気を取られている人】

携帯電話で話に夢中になるなど、何かに気を取られていると足もとへの注意力が低下します。



【雪みちに合わない靴をはいている人】

雪みち用の靴以外は大変滑りやすく、転倒する確率も高くなります。また、防寒を怠ると寒さで身体がこわばり、動きも鈍ります。



【お酒を飲んでいる人】

足もとへの注意力が散漫になり、動きも鈍ります。転んでケガをする原因にもなります。路面が滑りやすい日は十分に注意しましょう。

